

国際物理オリンピック 2021 リトアニア・オンライン大会結団式での挨拶

2021/7/18

JPhO 理事長 長谷川修司

皆様、こんにちは。

物理オリンピック日本委員会の理事長をしています東京大学の長谷川と申します。主催者を代表しまして一言ご挨拶申し上げます。

本日は、日曜日のお休みのところ、今年の国際物理オリンピックに派遣する日本代表選手役員団の結団式・壮行会に、たくさんの方々にご参加いただいて、オンラインではありますが盛大に開催できますこと、大変嬉しく思います。心から感謝申し上げます。

後でご紹介いたしますが、ここに座っている5名の高校生が、一年近くかけて選抜された今年の日本代表選手たちです。

栗野(あわの)稜也(りょうや)君、 糸永(いとなが)泰樹(たいき)君、
楠元(くすもと)康生(こうき)君、 佐藤(さとう)颯真(そうま)君、
村山(むらやま)一央(いお)君
です。

後ほど、この5名の日本代表選手がどのようなプロセスで選ばれてきたのか説明がありますが、昨年の物理チャレンジの参加者約900名の中から3回の選抜試験を経て選ばれた、まさに俊英たちです。

この5名の選手たちは、日本代表選手という**大きなプレッシャー**を毎日感じてきたと思います。しかし、そのプレッシャーに押しつぶさることなく、学校の勉強や部活と両立させながら、一年近く、高校レベルを超える高度な物理の勉強を続けてきました。その結果、世界の舞台で他の国の代表選手たちと互角に戦える実力を身につけてきました。そのような努力に対して、まずは、この5名の日本代表選手に敬意を表したいと思います。

また、選手たちを支えていただいたご家族の皆さん、学校の先生方には感謝申し上げます。

さて、東京オリンピック開会目前で世の中あわただしく落ち着きませんが、この1年以上の間、**新型コロナウイルス感染症**のために世界中で甚大な影響を受けてきました。この日本代表選手5人の選抜も例外ではありませんでした。思いだしていただくと、昨年4月から5月にかけて、初めての緊急事態宣言が発出されましたが、ちょうどその期間中に昨年の「物理チャレンジ」の参加者募集が行われました。全国一斉に小中高校が休校になったために、昨年の物理チャレンジ参加者は例年より500名も少なくなっていました。また、昨年7月に行った予選大会の第1チャレンジコンテストも、9月に開催した全国大会の第2チャレンジコンテストもすべて**オンラインで実施するという異例の形式**をとることになりました。そのあとの**日本代表選手候補者研修**も対面での実施ができず、オンラインを活用しながらなんとか実施してきました。そのような困難な状況にもめげず、ここにいる5名の代表選手たちは日々、高度な物理の勉強に励み、見事選抜試験を勝ち抜いてきたわけです。

今年の国際物理オリンピックは、本来なら開催国であるリトアニアに行き参加するはずでしたが、このような状況ですので、やはりオンライン形式で実施されることになりました。選手たちは、今我々がいる**八王子の大学セミナーハウス**に集まって試験に臨みます。問題翻訳などを行う役員の皆さんは都心の飯田橋の会場に集まっています。遠く離れた2会場で実施することで問題が事前に漏れないことを保証しているわけです。後でご挨拶いただきますが、不正行為がないか厳格に監視する監督の先生方もJPhO組織の外から参加いただいています。まったく、異例づくめの形式になりました。もちろん、コロナ感染防止対策を十分に取りながら実施します。

従来の現地開催の物理オリンピックでは、海外に旅行できることもうれしいわけですが、それにもまして他の国のたくさんの選手たちと交流す

ることが貴重な体験となるわけです。今年の選手たちはそれができません。ほんとうに残念でならないのですが、選手たちには、体調管理に注意して、今まで培ってきた実力をいかに発揮して悔いの残らないパフォーマンスをみせてくるものと期待しています。願わくは、色のいいメダルを、できるだけたくさんにとって欲しいと願っています。

また、7名の役員の先生方とOBの大学生の皆様も引率役員として参加していただきます。ご自分のお仕事や大学を休んで参加していただくこと、本当にありがとうございます。役員の皆様には、今夜から、時差のために徹夜で問題翻訳作業などをやっていただくことになりますので、これまた、体調に気を付けて選手たちのためにどうぞ頑張ってください。

コロナ禍のなか、この1年間で大きな変化がありました。それは、今年5月に、アジア物理オリンピックに日本チームが初めて参加したことです。今年は台湾が主催して、やはりオンライン形式で開催されました。アジア物理オリンピックは、国際物理オリンピックでの成績上位国が参加するレベルの高い大会です。その中で、日本代表選手たちは金メダルをはじめ複数のメダルを獲得しました。来年以降も日本から毎年選手役員団をアジア大会に派遣する予定です。そのアジア大会に参加した選手たちの感想が、このZoomのチャットに記載したURLのJPh0 News Letterにまとめられていますので、ダウンロードしていただいて後程お読みいただければと思います。アジア大会への参加も含めて、JPh0の活動をますます広げていきたいと考えています。

また、再来年の2023年には、国際物理オリンピックが日本で開催されることが決まっており、今回、試験監督を務めていただく、家先生や早野先生を中心に準備が始まっています。

文科省、JST、関連学協会や大学、そして協賛企業からの多くのご支援をいただいて物理オリンピック活動を継続していますが、そのご支援の輪がどんどん広がり、ますます高校生の関心を引き付け、物理チャレンジ・物理オリンピック活動を盛り上げたいと考えていますので、ご支援のほ

どよろしくお願いいたします。

それでは、選手の皆様、体調を崩さずに思う存分実力を発揮することを願います。頑張ってください。